

Mar Kead-girls Origin Vol.14

初恋

メイド ドット2

私の初恋お坊ちやまのご主人様に
調教される理由がない

Adult Only
R18
♥ DOUJIN

~ First Love Maid ~





このお屋敷には
既にメイドが
いるらしいんだけど

諸事情で
もう一人、新しいメイドが
必要になったらしい



私の名前はルイ
故郷で貧しい
思いをしてる
家族の為に

今日から
メイドとして
働く事になった



諸事情って
なんなのかが
気になるけど

どんな
理由であれ
頑張るしかない

ルイ・ヴィクトリアと申します

奉公は、
初めてだけど
仕事は仕事

よろしく
お願い
致します

こちらこそ
よろしく頼むよ

これは
私の息子
イヴだ

割り切ってる
つもり
だったのに

歳も近そうなのに
凜とした佇まいと
憂いを帯びたその瞳に
私は目を
奪われてしまった

…よろしく
お願いします

そして
それが私の

初恋だった

初恋

メイド

過酷な労働を
想定していたもの
だから

御主人様もイヴ様も
とても良くしてくれて
特に不満もなく働か
せて頂いていたの
だけけれど

イヴ様
休憩になさい
ましように

…うん

話に聞いていた
先住メイドの姿は
一切見えないし

御二人が普通に
過ごしている事が
むしろ私に違和感
を感じさせていた

なによりイヴ様は
私の前ではあまり
心を開いて下さ
らない事が辛か
つた

働き始めたのは
家族の為

私は自分にそう
言い聞かせて
メイドとして
敬愛するイヴ
様の側で
働かせて頂
けるだけで
私は満足
していた

それからしばらく
したある日
夜中にどこかへ
向かうイヴ様を
見かけた

イヴ様への思いと
好奇心に負けて
私は後を追ってしまった

広大なお屋敷の中に
こんな通路があっ
たなんて…

プライベートに
踏入すぎてはいけ
ないとわかってい
たのに



知らされて
いない
という事は
知らなくて
いいという事

扉の先から
聞いた事のない
声が聞こえる

この先に行って
しまったら
きつともう
引き返せない

それでも
どうしても
もつとイヴ様の
事が知りたい

イヴ様……?

イヴ様にとって
私はただの
メイドでも
私にとつての
イヴ様は……

……え？

は

は

ま

は

シッ

シッ

え、なに
イヴ様と…
誰…？

話に聞いてた
先住メイド…？
でも、なんで
こんな所に

それに、あの
お腹…
まさかイヴ様の
子供が…？

恋人…でもない
雰囲気だし
なんなの…？

ほ
ほ

とりあえず
気付かれない内に
この場を離れて…

やばい
ワケわかんなく
なってきた

御主人様に
伝えなさいや...

ルイ君
こんな場所で
何を
しているのかね

あつ
ご、御主人様

あのつ
この先のつ
屋根裏部屋？でつ

イヴ様と...
知らないメイドがつ
そのつ...

ふむ...
まあ察しは
つくが

とりあえず
私の部屋に
来なさい

は、はい

ほう…
息子が屋根裏で
身籠っている
メイドと…？

はい

ふむ…
直接触れて
いなかったら
のならば

今はまだ
良いだろう

パニックで
思わず言っ
てしまったけど
イヴ様
大丈夫かな…

それでは
お許しを…

あれが
孕んで
いるのは
私の子だ

えっ

そ、それは一体
どういう…!?

次期当主
となるイヴを
教育する為の
一貫なのだ

グッ

どれほど
渴望しても
自分の手中に
収められない
無力感…

その困難を
乗り越えてこそ
我が一族の
世継ぎに
ふさわしい

君にも本来の
奉仕の仕事をして
もらおうとしよう

あのメイドの名前は
ココというのだがな
出産も近いので
相手をさせる訳にも
いかず養生してた
というワケだ

え……なにこれ……
男の人のつて
こんなだに大きく
なるの……？

そこで君には
代わりに
私達の性処理を
してもらうはず
だったのだが
イヴが中々
受け入れ
なくてな

イヴが自分で
慰めるという
のなら

私は遠慮なく
使わせて
もらうと
しよう

自慰など
する前に
メイドならば
御主人様に
尽くしなさい

私はイヴ様の事が
好きなのに……っ

ダメ、私
なにしてっ……

さつき見た
イヴ様のと
全然違う……
すごいニオイ……
頭くらくらする……

君は家族の為に
働いて来たのだらう
食の持たがなくな
ならないように
玉も竿もしっかり
舐めなさい

熱くて
重い...

よしよし
やればよし
出来るじゃ
ないか

この中の精子
全部出たら
どうなっちゃう
んだらう

だがまだを
女の全てを
使えて
いないな

んま!





頭の中心が
御主人様で
ないっばいに
なっちゃうっつ



おお、生娘に
しては中々の
絞り具合
ではないか

全て飲み
干すのだぞ

熱い
濃い



ふむ
女の素質は
充分だな
ようだな

そうだな
この調子で
奉仕し続け
られるのなら
息子を任せ
られるだろう



あれ…
ココさん…？

僕は…

イヴ様
お目覚めですか

今日から私が
夜の方もお世話
させて頂きます

ルイさん…!?
これは…!?
ほどういっ
てくださいっ!

それは
出来ません

これは御主人様
からの御命令
ですので

イヴ様
ごめんなさい
こんな形
だとしても
私は…

しゅ…



イヴ様
私をはじめ
ですたん
でっよ

私の
ご奉仕では
ダメですか？



ルイさんっ…
だめっ…あつ…！



うあつ…
すごい…っ
気持ち
いいっ…

イヴ様っ…
私も気持ち
いいですっ…



あつ
出るっ
出ちやうよっ

…今なら
わかります
ココさんの事を
想ってるん
ですよ



全部出して
下さいって
私の中につ

あつ
つ
...



イヴ様の
気持ちか
私に向いて
なくても

イヴ様の
果たせぬ
私の体で
軽くなるなら...



ルイ君
調子の方は
どうかね

では
私の方も
頼りか

：はい
順調です
御主人様

そんな
私の思
いなど
関係なく

この屋敷
私の奉仕
は続いた

いつも
通りにな

：かしこ
まりました



おおつ
素晴らし
バキエム
だ

ふむ

男の悦ばせり
方もすつきり
慣れたな
よ



射精すぞ
一滴でも
こぼしたら
おしおきな
だからな

ヒュルルル



やうむ
うはりむ
だまはりむ
ただだま
かだ

ヒュルル

さて
おしおき
だが：

どうすれば
いいかわか
っているな？

はいっ♡

御主人
様のつ♡
極太おちんぽ

卑しいルイの
おまんこに
おまんにして
くささいっ♡

仕事として
体を求められた
から

全くかかる
メイトだ

もつと
主従関係を
弁えたまえ

ありがとう
ございますっ♡

こんな事
私身が
望んでる
ワケじゃ
ないのに



御主人様のおちんぽを挿れられると



気持ち良すぎでわからなくなってしまう



私なんて働いてるんだっけ？





せつかくの
特濃精子だ
好きなのだ
イきたまえ

子宮
#まな

よし
限界まで
入って
おるな

：そろそろ
イヴの方も
頃合いな
だるうな
様子を見
に行く
来るが
たまえ



ココさんっ

イヴ様っ…
触れては
いけませんっ
私もう
御主人様の…

そんなのもう
関係ないっ

僕はココさんが
いいんだっ

イヴ様…

…わかりました
そこまで
言われては
私も、覚悟を
決めないと
いけませんね

ココさん…
どうしても
ずつとずつと
こうした
かったんだ

…ふふっ
相変わらず
わがままです



あれほどに
私のモノに
触れては
ならないと
言いつけ
おつたの
に…

やはり
おしおきが
必要だな

ま、待つて
下さい
御主人様

イヴ様への
おしおきならば
私が受けます

何故君が
そこまで？

イヴは
あのメイドが
お気に入りだぞ

…それは
知っています
それでも、
今は私が…



私がつ！

イヴ様の
メイドだから
ですっ！！

ほう…
そこまで
イヴの事を
想っていたとは
泣ける話だな

ならば…

主人に向かって
あれ程の啖呵を
切ったのだ
余程の誠意があると
みていいの
だろうか？

はい…

不躰な物言い
大変申し訳
ありません
どうか
私の体をご自由に
お乗り下さい

ほう、東洋の
土下座か
中々見事な
情けなさだ

イヴの事など
建前で
本当はお前が
犯されたいだけ
ではないのか？

この様な知識
仕入れたのだから？
言葉攻めだけで
軽イキしおって

…ツ♥
その様な
事は…っ♥

まあ面白いモノを見せてもらった

良いだろう

では...! お許しを...!

ああ

自分から挿れるのだ

え...

こうっ...♥
ですかっ...♥

イヴ様の為っ...♥

これは全部イヴ様の為なんだからっ...♥

茶番に付き合ってた

今度は私を楽しませたまえ

私がおちんぽを欲しがってるワケじやっ...♥
な...いいっ...♥

七文字



御主人様の為の
おまんこに
なっちゃった…♡



実に良い
眺めだ
イヴと
あのメイド
にも見て
もらうか？

それ
だけはっ
ご勘弁
をっ…♡



ふむ、まだ口答え
する元気が
あるようだな

あつ…
私のっ…
フア…スト
キス…♡



子宮を
突き上げながら
射精してやるから
無様にイキたまえ

ダメだ…
私の体…
もう…♡





まだまだ
新米メイドに
しては見事な
イキっぷり
だったぞ

これから
良い働きを
期待してい
るからな

私の体は
もろ御主人様
の御心は
私だけだ
私の心は
まだイヴ様
の心を探
るために



でも切な
大らかな
だからこ
初恋は
実らない
なせ
思わな
たく
だって…



私のこの
気持ちも

初恋だ
んだもの
だった

初恋メイド2



スガヒデオ：はじめましての方ははじめましてスガヒデオです
メイド愛も深まりつつあるこの頃、久々に少し本文を増やしてみようと思
ったらとんでもなく大変でした、でも純愛だから仕方がないね
初恋なのか寝取られなのか横恋慕なのか
人間とは業が深いですね
それではまたお会いしましょう！

Usakinoko：ちゅびちゅびちゃぱちゃぱ

奥付

発行日：2024年7月7日

発行：Marked-two

発行人：スガヒデオ Assistant：Usakinoko

印刷：SUN GROUP

メール：sugahideo.mk2@gmail.com

Twitter：@sugahideo_mk2

無断転載，複製禁止

For Adult only





Presented by Marked-two